

ここ「良寛の里」は  
心温かな良寛さんの足跡が  
数多く残る地域です

その足跡をたどる

「良寛たずね道」で

「良寛八十八ヶ所巡り」を

楽しんでください。

良寛さんの面影に触れると、

きつと、あなたの心も和むことでしょう。

「良寛の里」は、生まれ育った「出雲崎」、

越後に帰り仮住まいした「寺泊」、

定住期間の長かった「分水」、

父が生まれ弟と親交を深めた「与板」、

そして貞心尼との出逢いと遷化の地「和島」…

この五つの地域からなります。

良寛さんの面影が残るこの地を

たずね歩けば、今もなお私たちに優しさを

届けてくれるそのぬくもりを

きつと感じることができるようでしょう。



## 良寛の生涯 (年齢は数え年)

1758(宝暦八年) 1歳

出雲崎の名主・橋屋の長男(栄蔵)として生まれる。父以南。母秀子(以南と結婚する前の名はおのぶ)

1770(明和七年) 13歳

この頃、大森子陽の塾三峰館で学ぶ。

1775(安永四年) 18歳

家を出て修行を始める。

1779(安永八年) 22歳

国仙和尚に随い備中円通寺に赴く。良寛の名をもらう。

1783(天明三年) 26歳

母秀子が亡くなる。

1791(寛政三年) 34歳

師の国仙和尚が亡くなる。その後、故郷を目指す。帰国後は、郷本空庵などに転々と暮らす。

1795(寛政七年) 38歳

父以南が京都桂川に身を投げ死す。

1797(寛政九年) 40歳

この頃五合庵に定住する。45~46歳の頃、密蔵院、西生寺などに一時住む。

1810(文化七年) 53歳

弟由之に家財取り上げ所払いの判決が下る。

1816(文化十三年) 59歳

五合庵を出て乙子神社草庵に移る。

1826(文政九年) 69歳

島崎の木村元右衛門の邸内庵室に移る。

1827(文政十年) 70歳

貞心尼が良寛さんを訪ねる。

1831(天保二年) 74歳

貞心尼、弟由之らに看取られ示寂。隆泉寺木村家墓地に葬られる。

※本ガイドに掲載されているデータは平成27年6月現在のものです。その後、内容が変更される場合がありますので、ご利用の際は事前にご確認されることをおすすめします。